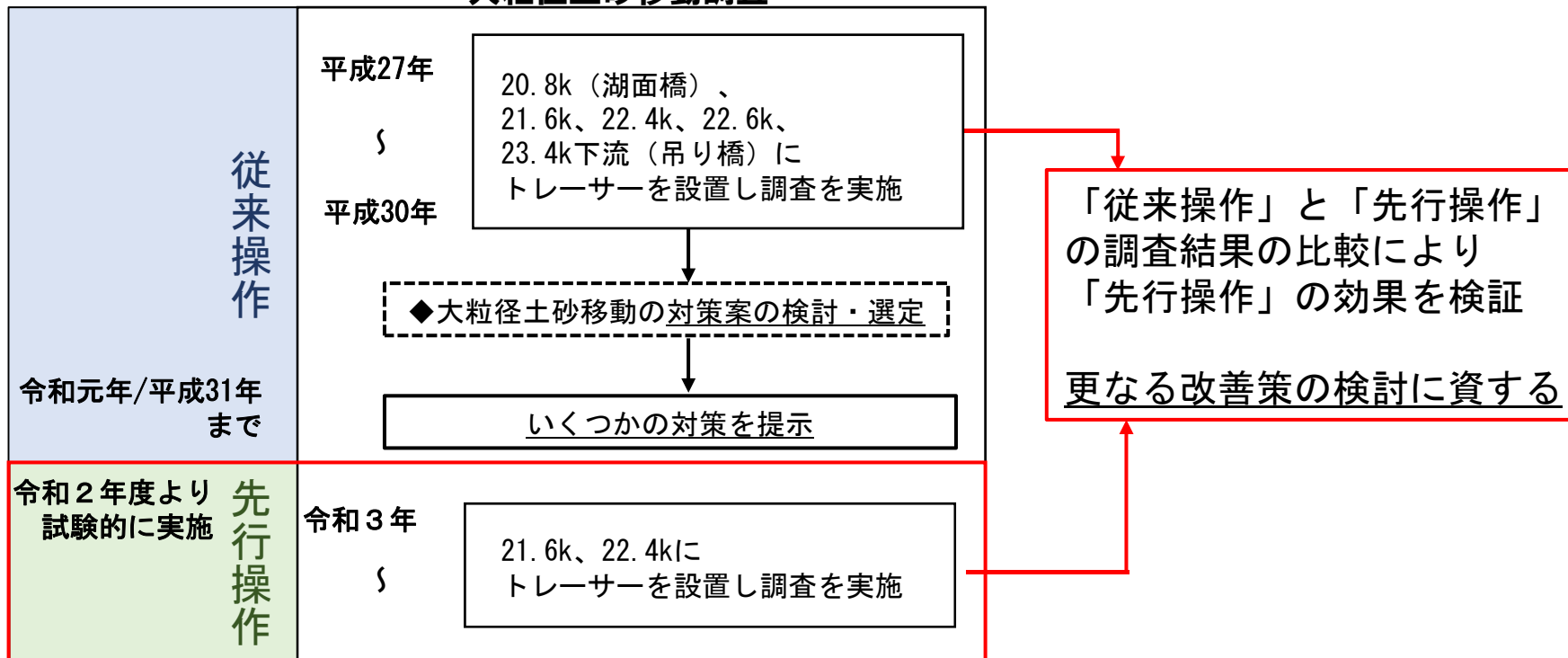


調査の目的

令和4年度に実施する連携排砂を対象に既往（平成27年～平成30年、令和3年）に実施した調査と同様の大粒径土砂の移動状況を把握することを目的とした調査を行う。既往調査を「従来操作」の調査結果とし、本調査結果と比較することで、「先行操作」の効果を検証する。

大粒径土砂移動調査



◆トレーサー：発信器を埋め込んだ礫

発信器

高出力タイプ：電池寿命約1ヶ月、通信距離約40m
 40～50cmの粒径の礫に使用

標準タイプ：電池寿命約2ヶ月、通信距離約10m
 主に10～30cmの粒径の礫に使用



発信器



トレーサー（発信器を埋め込んだ礫）の例



貯水池内の探索状況

令和4年度 大粒径土砂の移動状況調査計画（案）

調査内容

◆調査の概要

トレーサー（発信器を埋め込んだ礫）を用いて、排砂時における大粒径土砂の移動を追跡する調査を実施する。

◆トレーサーの設置位置

既往調査では、20.8k~23.4kを行っており、排砂設備を通過したのは20.8k~22.4kである。また、R3調査で多くのトレーサーが留まった21.2kにも今回調査より、設置を行うこととする。（※20.8kはダム直上であるため除外）

◆トレーサーの設置個数及び設置時期

トレーサーの設置個数は右表のとおりとし、設置時期は6月上旬には設置を完了させる。また、6月中旬以降に追加投入する予定。（電池寿命対策）

◆自然流下中のモニタリング計画

令和3年度調査結果では、21.0k~21.2kの間に多くのトレーサーが留まっているため、当該箇所を含めて確認できるようビデオ撮影を行う。

トレーサー個数

粒径 (cm)	設置個数		
	21.2k (A)	21.6k (B)	22.4k (C-1)
10	1	1	2
20	1	1	2
30	1	1	2
40	2	1	1
50	2	1	1

21.2k 計7個
21.6k 計5個
22.4k (中央部) 計8個

トレーサー設置 計20個

